

● 健 ● 保 ● 財 ● 政 ● の ● 圧 ● 迫 ● 要 ● 因 ●

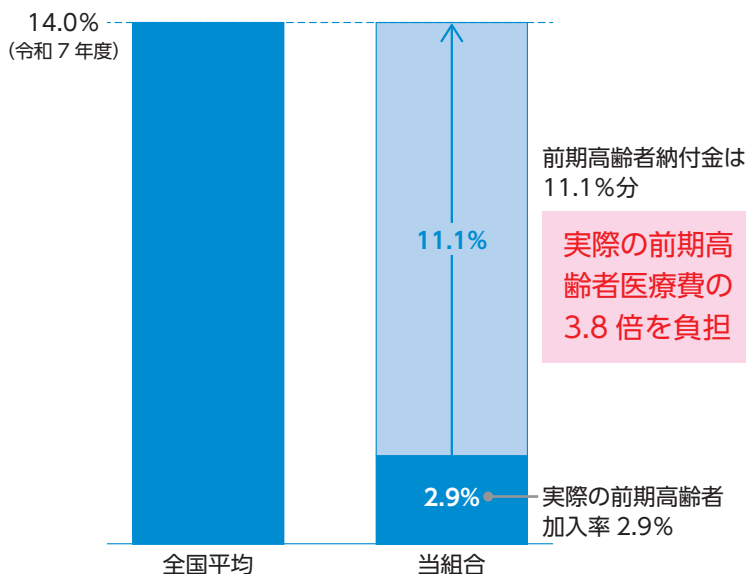
～ 前期高齢者医療制度～



65～74歳の高齢者を支える「前期高齢者医療制度」では、健保組合など各医療保険に加入している「前期高齢者」の人数に偏りがあるため、財政負担を調整する仕組みとなっています。

前期高齢者加入率と納付金のイメージ

前期高齢者加入率が当組合は2.9%



Q

前期高齢者になると受けられる給付は変わるのですか？

A

前期高齢者医療制度は、後期高齢者医療のような独立した仕組みではなく、保険者間の財政負担を調整する制度です。したがって、加入する保険者が同じならば、前期高齢者になっても従来と同じ保険給付を受けることができます。

POINT

前期高齢者の皆さまが早期の受診により重症化を防ぐことで、実際の医療費が減少し前期高齢者納付金の負担を抑制することができます。また、皆さまの家計の負担も軽減することができます。

● 健康を維持するために心掛けましょう

① 年に一度は健診で健康チェック

健診は、初期には自覚症状がほとんどない糖尿病や高血圧などの生活習慣病やがんを早い段階で発見し、早期受診により重症化の予防につながります。

② 生活習慣の見直し

適度な運動、バランスの取れた食事を日頃から心掛けるなど、生活習慣を見直すことが、病気の予防につながります。また、禁煙や十分な睡眠も重要です。

● 医療費を抑えるために

① ジェネリック医薬品を活用しよう

新薬と同等の効果で半額以下と安価なジェネリック医薬品の活用で医療費を抑えられます。

② 「はしご受診」を控えよう

同じ病気で複数の医療機関を渡り歩くと、同じ検査を何度も受けるなどで医療費が余計にかかります。また、体にも負担となってしまいます。

③ かかりつけ医を持とう

健康状態を把握してくれているかかりつけ医なら、適切なアドバイスが受けられるほか、必要に応じて紹介状を書いてくれるので、紹介状なしで大病院を受診する際に加算される特別料金がかかりません。

④ 夜間・休日の安易な受診を控えよう

診療時間外の夜間や休日の受診は、時間外料金が発生します。救急医療の妨げにもなりますので控えましょう。